
とあるヒーローの開発計画

闇より舞い降りた漆黒の墮天使・暗黒魔王ダークネス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とあるヒーローの開発計画

【Nコード】

N6944Y

【作者名】

闇より舞い降りた漆黒の堕天使・暗黒魔王ダークネス

【あらすじ】

世界を見守る精霊の、ふとした思い付きがえらい事態に……。

私に自我が目覚めたのは、今から何千年前の話なのか。

私は信仰によって生まれた存在だと自覚している。大地への、恵みの雨への感謝で私は生まれた。

私は善なる存在たれ、と望まれて存在している。

紙切り用の鋏が紙を切る用途で使われるように、私は人のためにと望まれた。

雨が降らなければ、力を使って雨を降らせた。土が痩せれば豊かにした。

しかし、ここ最近はどうか。

人間は土が痩せれば科学肥料を、雨が降らなければ人口降雨装置を使い、私の出番はない。

ならば人間は自然への感謝を忘れてしまうのか、と言えばそういうわけでもないらしい。

科学とは世界の摂理は超えられない。世界に出来る事を筋道立てて形にした物が科学である。

つまり、自然への信仰が科学への信仰と名前を変えただけで、人々の祈りは私という存在に流れ込んでいるのだ。

正直、中世の方が辛かった。宗教に信仰が移り、私には祈りが回ってこなかった。あの時は危うく消えてしまうかと思った。

宗教への祈りは力のベクトルが拡散しているせいで、私と同類の存在は生まれなかった。それが残念でならない。

それはともかく科学信仰の力が流入したせいなのか、最近の私は妙に理屈っぽくなってしまった。考える必要が無かった頃の方が楽だったと思う。なにせ私は他者との交流は難しい。

存在としての次元が違うせいで、コミュニケーションを取ろうと

しても妙な形にしか受け取られない。

人間の王に「私にもコントロール出来ない災害が起きるから、気をつけてはどうだろう？」と伝えたら、何故か生贄の心臓をえぐり出す儀式が始まった時は肝が冷えた。私に肝はないが。

人間は私の手を離れた。私が手を出さずともいきなり絶滅するような事はないし、戦争で自滅するような事があっても私は何かをする気はない。

困った事があれば、それに手を貸すのはいい。しかし、人間の選択に介入する気はないのだ。

と、いう事で私は暇である。思考するだけの知性を獲得したが、議論を交わす相手もない。

最先端の技術開発について、NASAの科学者達に教えてやれるだけの知識と知性があると自負しているが、使い道もない。

最近では日曜朝八時にテレビで、ハイパーヒーロータイムを見るのが楽しみになったくらい暇である。何故、この国はこういうサブカルチャーの分野には全力を発揮するのだろうか。

人間が猿と大して変わらなかった頃から考えれば、こういう進化をしたのだと思わなくもない。何があっただ、人類。

ふと気付いた。

ヒーローを作るのはどうだろうか？

長らく続く政治不信、そして先の見えない未来に若者達の希望が失われつつある。……とニュースではよく言っている。

ピラミッドを作っていた大昔から、最近の若い者は……と愚痴っているのは変わらない。そうそう人間の本質は変わっていないのだから、今も何とかなるのではないかと私は思うのだが。

話が逸れてしまった。

ヒーローを實在させれば、幼き頃にヒーローに憧れた彼らは、その熱き心を取り戻し、活気ある国を復活させるのではないか。と

いう大義名分が着く。

海の方こうの大国も似たような文化があるが、奴らは下手な敵を用意してしまうと銃で反撃してくるだろう。ヒーローの必要性がなくなる。

一般人が武装していない。ヒーローの文化が浸透している。

この二点の条件をクリアしているのは、ここだけだろう。

理想的なテストモデルだ。私は人類のため、ヒーローを作るとしよう。

この国の人間は頭がおかしいのではないだろうか。
テストモデルとして、英雄願望を持つ中学二年生に力を与えてみた。

これは本人の深層心理にある『ぼくのかんがえたかつこいいヒーロー』を一定の制限付きで具現化する物だった。

さすがにエナジーナルフォースブリザード、相手は死ぬをされては困る。

力を与えた中学生の前に、悪の秘密結社グランドサザンクロス
の怪人（無論、人間を死なせるような事はない。怪人も私が作った
メカである。建物などに被害はあるが、所有者に宝くじが当たる
など保証は完璧だ）を出してみた。

派手な立ち回りと、誰もやれとは言っていない名乗り上げ。ご
丁寧に仮面のヒーローを自称してくれた彼は、この国を大いに盛り
上げてくれた。

そこまではいい。そこまではいいのだ。

一ヶ月後、国会にある計画が提出された。

『マスクドヒーロー計画』

しかも、一カ所からではない。私が力を与えたヒーローを解析したと豪語し、計画を提出してきた大学は四十、ロボット研究所から十八、企業が九、更に高校から四。

どうなっているんだ、一体。彼らの頭の中でカンブリア大爆発でも起きたのだろうか。

計画が提出された三日後、国会では異例のスピード採決がなされ、国家プロジェクトとしてマスクドヒーロー計画が始まった。

なお、さすがに著作権的に不味いという事で、元ネタの制作会社とスタジオに挨拶に行った所、著作権の話をする前に担当者はデザイン案を千枚以上、渡されて帰ってきていた。

更に一ヶ月後、マスクドヒーローを個人で開発した者すら現れた。

この国最高の開発チームを差し置いて、だ。

開発チームの失敗は、ただ一つ。

デザイン案を貰い過ぎて、その決定に時間がかかっていたせいだ。すでに素体だけは完成していた。

ある大国ではのろのろと動くだけのパワードスーツがやっとだというのに、この国では映像と遜色ない動き、いや、それ以上にアクロバティックな動きも可能なマスクドヒーローが完成されようとしていた。

頭の回線が妙な所に繋がった科学者達の頭脳は、百年先の技術を得ていると自負していた私にも、すでに理解出来なくなっている。

一年も過ぎた頃になって、私はやっと不味い事になっていると気付いた。

技術格差が他国と比べ、恐ろしい事になっているのだ。

小銃弾程度なら弾き返す装甲、戦車砲なら照準を付ける前に避ける機動性。戦車の正面装甲も殴れば穴が開くパワーアシスト機能。

戦力比ヒーロー・主力戦車五十。

各県にヒーローを作れるほどの量産。これについては量産型を一切作らない彼らのこだわりにより、大した意味を持たなかったが。もし、この技術を使えば世界征服すら……と思ったが、彼らは一切、そんな事はしなかった。

先制攻撃をしない、武器を輸出しない、という長年の理念とヒーローを人殺しの道具にしないという科学者達の想いが戦争の道を選ばせなかったのだ。

それどころか国連での演説で、『ヒーローは人を守るために存在している!』と、この国の総理大臣が言ったほどだ。一年前なら気が狂ったとは思えない発言だが、この国では誰もが総理大臣を称えた。

その代わりグランドサザンクロスを倒した後、各地にご当地悪の組織が誕生していった。

頭のいい個人は頭がおかしくなるらしい。彼らも人を傷付ける事なく、悪役をこなしていた。

ヒーローへの信仰は私の力へと変換され続けた。

これまで地球のみだった私の力の範囲が、月まで届くようになったほどだ。しかし、私は月に力を使う事を恐れている。

何故ならば、

『次は巨大ロボットが出てこないかな』

という希望がひしひしと伝わって来るのだ。

月に手を伸ばしたら、そこを悪の秘密基地にしてロボットを作るという誘惑に勝てる自信が、私にはない。

しかし、私は人に望まれた存在だ。人の純粋な望みを叶えずにはいられないだろう。

……今まで味わった祈りより、どれよりも純粹に悪のロボットを望むのはどうなのだろうか。

(後書き)

ご当地ヒーローと悪の秘密結社

・島根電化団

自然の王国島根のご家庭にパソコンを一台を配り、文明的にしようというおそろしい悪の秘密結社だ！

・マスクドヒーローシマネ

島根っばいヒーローだぞ。

説明しにくいけど、とにかく島根っばい。

・マスクドヒーローナーラ

奈良のご当地ヒーロー。

まるで石像のようなカラーリングと、頭についている鹿の角が特徴だ。

必殺のスクリュークラッシュャーセントは、頭の角で突き刺し、高速回転させて悪い怪人を粉々にするぞ！

倒した後のお経は慈悲の心の表れだけど、怪人の返り血を滴らせながらの姿は子供達マジ泣きだぞ！

・一人でキュアキュア

全国初の女性ヒーローだ。

女の子が殴られるのは可哀想、という理由でバリアが開発されたよ！

さあ、みんなもヒーロー達をかんがえてくれよな！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6944y/>

とあるヒーローの開発計画

2011年11月20日21時40分発行